中日新聞　（第3種郵便物認可）

夢乗せ成層圏 飛べ紙飛行機

大型風船「スペースバルーン」で小学生が将来の夢などメッセージを書いた紙飛行機を30㌔近い上空から飛ばすプロジェクトに、名古屋大公認サークルの宇宙開発チーム「NAFT」が挑む。成層圏の景色や紙飛行機が滑空する様子も撮影し、特殊な映像処理技術を持つ静岡県のクロスデバイス（浜松市）とフィリット（湖西市）などの会社が360度パノラマ動画に編集して教材などに活用する。（瀬戸勝之）

NAFTが9月に撮影したスペースバルーンからの成層圏のパノラマ映像＝NAFT提供

名古屋大公認サークル計画

「宇宙パノラマ360プロジェクト」と銘打ち、ヘリウムガスの入ったスペースバルーン（直径約二・五㍍）に紙飛行機が入った収納用ボックス、複数のビデオカメラとバッテリーをつり下げて飛ばす。収納用ボックスには紙飛行機をモーターで飛ばす機構が付いていて、高度約三十㌔に達すると作動する。

愛知県蒲郡市か豊橋市で、気象条件の良い日を選んで三回打ち上げる。早ければ初回は来年一～二月になる見通しで、具体的な日程や児童の参加人数はクロス社などが募集しているスポンサー企業と調整して決める。NAFTは本番や実験で使うカメラを提供してくれる企業も募っている。

紙飛行機は植物の種をすき込んだ紙を使い、地中の微生物によって分解される。地面に落ちた後に植物が発芽して夢が実現するかのように開花する、というストーリーだ。ビデオカメラなどは風船が破裂した後、パラシュートで三河湾に落下。衛星利用測位システム（GPS）を利用して回収する。

撮影した映像データは、クロス社などの映像処理ソフトを使って三百六十度パノラマ映像に編集し、インターネット上で配信するほか、プラネタリウムで放映する。小学生用の教材としても活用する考えだ。

浜松の企業など動画編集

NAFTは宇宙に関心がある学生ら約三十人が所属し、スペースバルーンによる撮影や子どもの教育活動に熱心に取り組んでいる。四月には米国で四十六カ国のチームが出場して開かれたスペースバルーンのコンテストにも参加した。

今回のプロジェクトに向け、九月十五日に高知県室戸市で打ち上げ実験をした。徳島大大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部の佐原理准教授が指導し、成層圏は撮影できたが、紙飛行機が映らなかったという。紙飛行機を送り出す機構がうまく作動しなかったとみられ、NAFTメンバーで工学部電気電子・情報工学科三年の岩倉亮介さん（二）は「本番までに改善し、成功させて子どもたちの思い出に残るプロジェクトにしたい」と話す。